

## 第 36 表 被覆アーク溶接棒の区分 (JIS Z3040-1995 抜粋)

被覆アーク溶接棒の区分	種 類	規格例 (規格番号)
F-1-(1)	低水素系以外の被覆アーク溶接棒で、軟鋼及び 490N/mm <sup>2</sup> 級鋼に用いられるもの	D43XX D50XX (JIS Z 3211) (JIS Z 3212)
F-1-(2)	低水素系の被覆アーク溶接棒で、軟鋼及び 490N/mm <sup>2</sup> 級鋼に用いられるもの	D43XX D50XX D53XX (JIS Z 3211) (JIS Z 3212)
F-1-(3)	低温用鋼に用いられる被覆アーク溶接棒で、溶着金属のニッケル量が2%未満のもの	DL50XX-X-X (JIS Z 3241)
F-1-(4)	低水素系の被覆アーク溶接棒で、590N/mm <sup>2</sup> 級鋼に用いられるもの	D58XX D62XX (JIS Z 3212)
F-1-(5)	低水素系の被覆アーク溶接棒で、685～780N/mm <sup>2</sup> 級鋼に用いられるもの	D70XX, D76XX, D80XX (JIS Z 3213)
F-3	溶着金属の標準合金成分がP-3材と同程度の被覆アーク溶接棒で、主としてP-3材に用いられるもの	DT1216 (JIS Z 3223)
F-4	溶着金属の標準合金成分がP-4材と同程度の被覆アーク溶接棒で、主としてP-4材に用いられるもの	DT2313, DT2316, DT2318, DT2415 (JIS Z 3223)
F-5	溶着金属の標準合金成分がP-5材と同程度の被覆アーク溶接棒で、主としてP-5材に用いられるもの	DT2413, DT2415, DT2416, DT2418, DT2516 (JIS Z 3223)
F-6	マルテンサイト系ステンレス鋼の溶着金属が得られる被覆アーク溶接棒	D410, D630 (JIS Z 3221)
F-7	フェライト系ステンレス鋼の溶着金属が得られる被覆アーク溶接棒	D410Nb, D430, D430Nb (JIS Z 3221)
F-8A	オーステナイト系ステンレス鋼の溶着金属が得られる被覆アーク溶接棒	D308, D308L, D309, D309L, D309Mo, D309MoL, D310, D310Mo, D316, D316L, D316J1L, D317, D317L, D16-8-2, D347, D347L (JIS Z 3221)
F-8B	オーステナイト・フェライト系ステンレス鋼の溶着金属が得られる被覆アーク溶接棒	D329J1 (JIS Z 3221)
F-9A	低温用ニッケル鋼に用いられる被覆アーク溶接棒で、溶着金属のニッケル量が2.5%程度のもの	DL5016-X-2 DL5026-X-2 (JIS Z 3241)
F-9B	低温用ニッケル鋼に用いられる被覆アーク溶接棒で、溶着金属のニッケル量が3.5%程度及びそれ以上のもの	DL-5016-X-X (JIS Z 3241)
F-31	銅及び銅合金の用いられる被覆アーク溶接棒	銅系 DCu (JIS Z 3231)
F-32		けい素青銅系 DCuSiA, DCuSiB (JIS Z 3231)
F-33		りん青銅系 DCuSnA, DCuSnB (JIS Z 3231)
F-34		白銅系 DCuNi-1, DCuNi-3 (JIS Z 3231)
F-35		アルミニウム青銅系 DCuAlA, DCuAlNi (JIS Z 3231)
F-41	純ニッケルに用いられる被覆アーク溶接棒	DNi-1 (JIS Z 3224)
F-42	ニッケル銅合金に用いられる被覆アーク溶接棒	DNiCu-X (JIS Z 3224)
F-43	ニッケル-クロム-鉄合金及びニッケル-クロム-モリブデン合金に用いられる被覆アーク溶接棒 なお、低温用9%ニッケル鋼にはD9Ni-1、D9Ni-2が主として用いられる	DNiCrFe-X, D-Ni-1 (JIS Z 3224)
F-44		DNiMo-1, DNiCrMo-X (JIS Z 3224) D9Ni-2 (JIS Z 3225)

備考 規格例中“X”の記号は、JISでそれぞれ数値又は記号が定められているが、そのいずれにも適用することを表す。